

青木文庫蔵図像資料目録

中 塚 亮

1.はじめに

本学附属図書館には青木正児博士の旧蔵書や、自筆のノート・原稿のほか、さまざまな資料が収められた青木文庫がある。所蔵資料の全体を知るものとして、『青木文庫展覧会陳列書解説』、「名古屋大学所蔵青木文庫目録」(一)(二)及び『和漢古典籍目録稿』・『漢籍目録稿』などの目録や青木文庫展覧会図録『「遊心」の祝福』があり、目録については図書館サイト内の漢籍データベースにより検索もできるようになっている¹。

また、個別の資料については、張小鋼・渡辺幸彦両氏による「ノート」に関する研究や²、杉山寛行・張小鋼両氏による文物の価格に注目して領収書やチラシ類を中心に所蔵資料を紹介した論文がある³。このほか、戯単に関しては論者が目録を作成し紹介した⁴。

本稿では所蔵資料のうち、青木が中国で収集した図像資料について図版を示し簡単な解説を付して紹介する⁵。

1-1.概要

青木文庫所蔵資料のうち、図像資料を取り扱うものとしては、『新春画冊』2冊、『神碼及娘々碼』『祭礼紙様』各1冊の計4冊が存在する。それぞれ青木が収集した図版をジャンルごとに分別して(詳細については後述)台紙に貼り、一冊に綴じたスクラップブックであり、いずれも表紙に「大正十五年二月輯」と墨書されている。青木は『江南春』で知られる大正11年(1922年)の江南旅行と、大正14年(1925年)3月から翌15年(1926年)7月にかけて文部省の在外研究員として主に北京中心に滞在したときと、あわせて2回訪中しているが、日付及び民国15年(1925年)付けの「竈神図」(4-18,19)が含まれていることから見て後者の際に収集したものと思われる⁶。

1・2.意義

青木は大正14～15年の訪中の際に、画工を雇って『北京風俗図譜』を作成しているが、その理由を次のように述べている。

元来私は戯曲小説を中心に文学を研究してゐたので、風俗には殊に深き関心を持ち、前年江南に遊んだ折も、通りすがりの皮相の観察ではあつたが、注意を怠らなかつた。北京では一箇年の予定で滞在したので、稍や腰を落著けて見つめることが許された。そこで折にふれて盛り場の人ごみにもまれたり、ゆるゆると縁日の露店をひやかしたり、ぶらぶらと裏通りを漫步したりしてゐるうちに、私の気づいたことは、北京には、まだまだ古い風俗が遺されてゐる、しかし其れも新しい洋風に化せられて、次第に失はれつつある、と云ふことである。今にして之を記録しておかなければ、遠からず湮滅してしまふであらうと考へたので、其の一法として此の図譜の作成を企てたのであつた。⁷

古い、消えつつある風俗を記録する目的で『北京風俗図譜』を作成したと言うことがこのことから知られる。ただし、次の文からわかるように、元々は原資料自体を購入・収集したかったが資金面の事情により絵による記録に転換したようだ。

部長（武内義雄当時東北帝大教授）へ申し上げておきました中国の風俗資料蒐集の件について、到底多額の資金を支出する方法がないとのことですが、やむを得ないことと存じます。しかし如何にも残念ですので、せめて風俗図譜だけでも作らせて帰りたいと思うのです。⁸

『新春画冊』や『神碼及娘々碼』、『祭礼紙様』所収の図像資料についても、青木は同様に、風俗の記録という意図によって収集したと思われる。

そして、これらの資料については、『北京風俗図譜』や青木自身の文章と関連させながら見ることで、より当時の風俗の復元に寄与させることができるといえる。

次に青木が北京の正月について記した文章について見てみる⁹。なお、青木文庫に該当する図が所蔵されているものについては、丸括弧で本図録での番号を示し、また同様に『北京風俗図譜』に該当する場面が見られるものについては、角括弧で『北京風俗図譜』の番

号を示す。

私は一度正月を北京で過した。無論舊曆である。師走のあわたゞしさはいづこも同じである。遑々々々（ぶら〜）組と呼ばれてゐた吾々閑人は、興へられたる名に背かず、歳も押詰つた東四牌樓の大街をぶら〜しつゝ町の景氣を傍觀して歩いた。

（中略）紙屋には悪鬼を捉ふべき門神（神像畫）や、亡者を小遣ひ錢に不自由させぬ爲の親切から焼くらしい紙錢の看板を出して人を呼ぶ。（中略）露店の敷物の上、こゝには月餅の頂に飾り立てらるべき剪り抜きリウタの繪紙や、新春の窓障子を粧ふべき紋紙が落花のやうに散ばつてゐる。かしこには安物の俗諺本や曆に雜つて陞官圖（出世雙六）



（4-20）が廣げられてゐる。

（中略）俗悪な天津製の石版畫をぶら〜吊して鬻いでゐるのは所謂畫棚なるものである〔一八獵月畫棚（*左掲図⁶）。瑞氣靈肆たる「大いに新年を過ぐる」の圖（1-02.03）、慾張屋の喜ぶ「財神門に叫ぶ」の圖（1-06）、さても芽出度い「瑤池壽を上る」の圖（1-10）、

お家繁昌「親家を會する」の圖（1-04）、少し雅な所では西湖風景の圖、四季花鳥の圖、誰も喜ぶ芝居繪……其等は皆市民の氣分を一新する爲に萬家新春の壁上に貼り付けられるのである。

（中略）正月は春聯を以て始り、春燈を以て終るのである。除夕になると各家春聯を治めて門もしくは戸口の兩側の柱に貼る。悉く新春を祝福する對句であつて、多くは件の市隱先生の名筆である。門の扉には神荼・鬱壘の門神の彩色木版繪（4-06.07）が相對して貼られる〔一八春聯門神〕。門上には掛錢數枚が七五三繩を張つたやうな形に貼つて下げられる。掛錢は赤緑紫等の色紙を、切り子燈籠の垂れ紙のやうな鹽梅に種々な網狀の紋様を刻み込み、中に「福」（4-01）「四季平安」（4-02.05）「五福臨門」（4-03）「天宜賜福」（4-04）等の吉祥文字が刻み出されてある。春聯は先づ我が門松の趣があり、掛錢は七五三飾に比すべきであらう。

(中略) 北京では今も除夕は「守歳」と稱して徹夜すると云ふことである。そして未明に神を祭り、爆竹を鳴らして新年を迎へる。(中略) 敬虔の念に満てる善良なる都民は此時「天地三界十方萬靈真宰」の神碼(おふた)(4-09)の前に香蠟を獻じ、南千張(御幣のやうに切つた紙)を垂れ、元寶(紙製の馬蹄銀)を供へ、温かい餃子(葉肉入り團子の湯煮したもの)を供へ、三拜九拜して接神の禮を行つてゐるのである[五-7 敬神器物]。(後略)

以上のように、青木の文章には、『北京風俗図譜』中の場面や、実際に収集した資料が多く書き込まれている¹¹⁾。本文章は昭和2年(1927年)1月に『黒潮』に掲載されたものであり、おそらくは帰国数ヶ月後に『北京通俗図譜』や資料を実際に参照しながら、留学当時の様子を思い起こしつつ記したのであろう。

また、青木文庫所蔵図像資料の中には『北京風俗図譜』中に書き込まれたアイテムの現物も見られる。例えば、上述の[一-1 春聯門中中の門神(4-06,07)のほか[五-7 敬神器物]



(*左掲図¹²⁾中に描き込まれた八仙の版画(4-10,11,13,14)についても同様のものが青木文庫に所蔵されている。

このように青木文庫所蔵図像資料を参照することで、『北京風俗図譜』や文章、ひいては当時の風俗に対する理解をより深めることができるといえる。

1-3.分類

青木は収集した図像資料を『新春画冊』2冊、『神碼及娘々碼』、『祭禮紙様』の3種類に分類して製本している。このうち、「俗悪な天津製の石版畫」を収めたものが『新春画冊』の2冊である¹³⁾。『新春画冊』の名は、所収の版画が「市民の氣分を一新する爲に萬家新春の壁上に貼り付けられる」ものであることから来ている。次に、神像版画を収めたものが『神碼及娘々碼』である。「神碼」について、青木は上掲「春聯から春燈まで」中で「おふた」の読みを与えている。新年など折々の行事の際に神棚などに供えるほか、個別のお祝

いやお祓いの際にもそれぞれの役割を担った神々の神碼を購入し祀る¹⁴。『祭禮紙様』にはそれ以外の図像が収められる。以下では、それぞれの資料を紹介する。

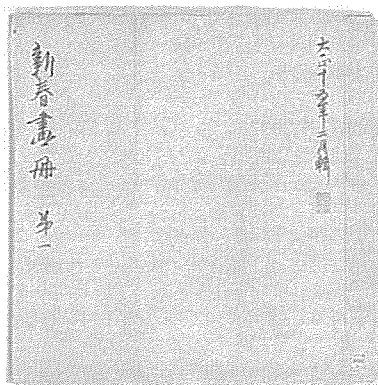
なお、個別の資料については、「名称（*潰れるなどして読めない字については□で示す）/サイズ（縦×横）（単位はcm）/刊記」の書式で示す。

-
- 1 『青木文庫展覧会陳列書解説』1974
「名古屋大学所蔵青木文庫目録」(一), 『名古屋大学中国語学文学論集』1,1976
「名古屋大学所蔵青木文庫目録」(二), 『名古屋大学中国語学文学論集』2,1977
名古屋大学附属図書館『名古屋大学附属図書館所蔵和漢古典籍目録稿』1995
『名古屋大学蔵漢籍目録稿』,1999
『「遊心」の祝福』名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室,2007
<http://libst1.nul.nagoya-u.ac.jp/wakan/index.html> (古典籍内容記述的データベース)
 - 2 張小鋼「青木正児博士の「名物学」と名古屋大学図書館の青木文庫」『名古屋大学中国語学文学論集』6,1993
張小鋼「資料 青木正児博士ノート (一)」『名古屋大学中国語学文学論集』6,1993
張小鋼・渡辺幸彦「資料 青木正児博士ノート (二) (三)」『名古屋大学中国語学文学論集』7, 8,1994、1995
渡辺幸彦・張小鋼「名古屋大学青木文庫所蔵『鼓東雜録』『借鑑鈔存』について」『名古屋大学中国語学文学論集』7,1994
 - 3 杉山寛行・張小鋼「青木正児博士とその資料 (上) (中)」『名古屋大学文学部研究論集 (文学)』46、48,2000、2002
 - 4 中塚亮「青木文庫蔵書目録」『名古屋大学中国語学文学論集』20,2008
 - 5 なお、以下の図像資料については、『青木文庫展覧会陳列書解説』・「名古屋大学所蔵青木文庫目録」(二)に、製本された冊子全体のタイトルの掲示のみがあり、中身についてははふれられていない。『和漢古典籍目録稿』・『漢籍目録稿』の両目録及び漢籍データベースには未掲載。
 - 6 「年譜」『青木正児全集』第10巻,春秋社,1984
 - 7 「原著者の序」,内田道夫編『北京風俗図譜』,平凡社,1986,p.3
 - 8 1925.11.11付、青木より武内宛書簡(「陶然自楽」25,『京都新聞』2004.9.16)
 - 9 「春聯から春燈まで」『黒潮』1927年1月,『青木正児全集』7巻,春秋社,1945
 - 10 前掲『北京風俗図譜』p.44
 - 11 本部分は、前掲『「遊心」の祝福』『新春画冊』『祭礼紙様』『神碼及娘々碼』の項でも論者がすでに指摘している。
 - 12 前掲『北京風俗図譜』,p.122
 - 13 なお、「俗悪な天津製の石版書」とは所謂狭義の「年画」と重なる。しかし、「年画」という用語は三山陵「[年画]の概念の変容について—混乱から誤用の定着について—」『日本アジア研究』3,2006.3が指摘するように、曖昧な定義のまま使用されており、きちんとした再定義が必要と考える。ただし、それは本稿が目的とするところではないので、ひとまず本稿ではあえて一般と思われる「年画」の称を用いないこととする。
 - 14 陶思炎(何燕生訳)「中国の紙馬について」『論集』24,1997

2. 『新春画冊』

『新春画冊』には上述の通り、「天津製の石版畫」を収める。このうち「芝居繪」については、相当する芝居のタイトルを示す¹⁵。

2-1. 『新春画冊』第一



1-00/表紙



1-01/農人樂/60×105/-



1-02/大過新年/60×105/-

上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。



1-03/大過新年/60×105/正興德
亭記

上述「春聯から春燈まで」中に
記述あり。



1-04/會親家/60×105/正興德
記

上述「春聯から春燈まで」中に
記述あり。



1-05/感親孝祖/60×105/正興德
亭記

成兆才作の評劇《感親孝祖》を
題材とする¹⁶。



1-06/財拏中門/60×105/正興德
亭記

上述「春聯から春燈まで」中に
記述あり。



1-07/八路進財/60×105/-



1-08/天賜黄金/60×105/正興徳
亭記



1-09/財寶到家平安吉慶/60×
105/正興徳亭記



1-10/瑤池上壽/60×105/正興徳
亭記
上述「春聯から春燈まで」中に
記述あり。



1-11/八仙図/60×105/正興徳亨記

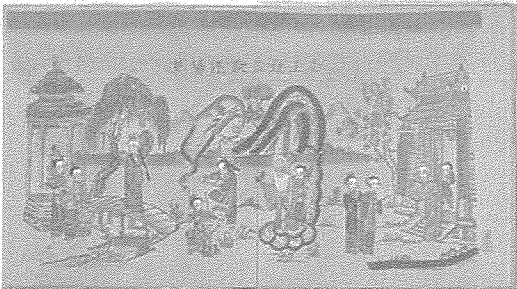


1-12/三月三 蟠桃赴會/60×105/
正興徳亨記



1-13/雙釵記 楊大人救收義女/60
×105/-

胡嬌鸞・胡鸞英とその侍女の臘梅が身投げしようとするところを楊大人がたすける場面を描き、小説『雙釵記』の第29回に相当する¹⁷。『雙釵記』は小説のほか、安徽泗州戯にも見られる¹⁸。



1-14/白玉娘盗取還陽草/60×
105/正興徳亨記

『白蛇伝』もの。右から《遊湖借傘》《盗仙草》《断橋》の3つの場面を一枚の図に描く¹⁹。



1-15/長安城大鬧花燈/60×105/
正興德亨記
隋唐もの。《七雄鬧花燈》を題材
とする²⁰。



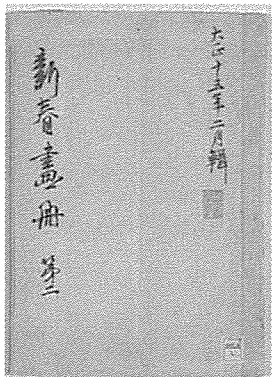
1-16 (左) /蝴蝶盃/105×60/正興
德亨記老画店
1-17 (右) /慶頂珠/105×60/正興
德亨記画店

ともに同名戯曲を題材とする²¹。
《蝴蝶杯》は老漁夫胡彦と娘の
鳳蓮を、《慶頂珠》《打殺漁家》
はもと梁山泊の英雄で、漁を生
業とする蕭恩（阮小二）と娘の
桂英をそれぞれ描く。



1-18/蚩蜡廟/60×105/正興德亨
記
『施公案』もの。《蚩蜡廟》の黃
天霸らが蚩蜡廟で費德恭を捕ら
える場面を描く²²。

2-2. 『新春画冊』 第二



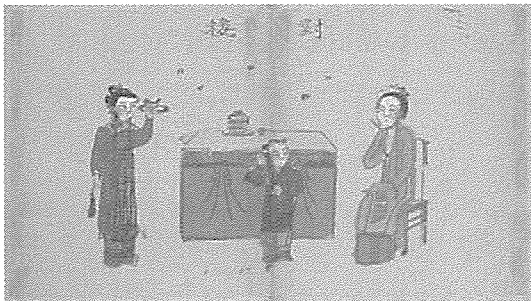
2-00/表紙



2-01/財神過年/30×50/-



2-02/富貴有餘/30×50/-



2-03/對樓/30×50/-



2-04/武松打店十字披/30×50/-

『水滸伝』もの。《十字披》(《武松打店》)の暗中で武松と、張青・孫二娘がたたかう場面を描く²³。



2-05/金家庄拿謝虎/30×50/-

《鄭州廟》(《拿謝虎》)の黃天霸・計全と謝虎がたたかう場面²⁴。謝虎が天霸に毒薬を仕込んだ鏢を投げる様子を描く。



2-06/拿九花娘/30×50/-

『彭公案』もの。《迷人館》(《拿九花娘》)の徐盛・歐陽徳が九花娘を捕らえようとする場面を描く²⁵。



2-07 (右) /仕女図

50×30/-

2-08 (左) /仕女図

50×30/-



2-09/新喜笑三合/36×52/㊦



2-10/八鮮慶壽九九消寒圖/35×

51/天津德源工廠製造

「天津德源工廠」は楊柳青・炒米店の「德源号」か²⁶。

「九九消寒圖」は一種のカレンダー。『北京年中行事記』では、「消寒圖は〔九個の方形に每一個宛に九個の圈を圖したのもの〕

乃ち九格八十一圈である。冬至から始まり日に一圈を塗る。陰天には上半を、晴天には下

半を、風の日は左、雨の日は右、雪の降る日は真中を彩る。「帝京景物略」を見るに、冬至の日に人家では白い梅の花一枝を畫く。花瓣八十一個を作り、〔天氣により異なる色を用ひて〕日に花瓣一個づつを染める。花瓣が盡きて、九九が登場すれば最早春は深くなつて居る。此圖を九九消寒圖と曰ふ。とある」と記している²⁷。本図でも左上に八十一圈がある。ただし、塗り方については「上点天陰、下点晴。左風右雨、雪中空。若逢大霧中心点。上下都点半陰晴」とし、若干相違する。



2-11/元寶有餘/36×52/元



2-12/陸官拜相/36×52/増

2-13/麻姑航海(右)・牡丹採藥(左)/36×52/元

2つの左右対の図柄が一枚に刷られている。麻姑は西王母のもとに「麻姑献寿」に向かう図柄か。楽亭皮影戯などに同名の演目あり²⁸。



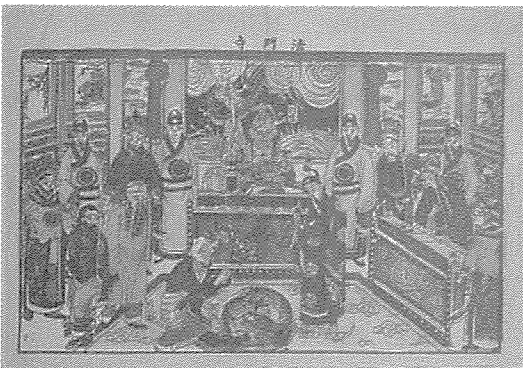
「牡丹」は白牡丹。白牡丹が呂洞賓と結ばれる物語は小説『東遊記』や戯曲《呂洞賓戯牡丹》などに見られる。白牡丹については諸伝あるが、小説『三戯白牡丹』では、嫦娥が西王母の誕生祝いに訪れた呂洞賓に酒をつぐ折りに微笑みかけ、呂洞賓の心を動かした罰として下界に落

とされ、白牡丹となる。白牡丹の父・白富貴は薬舗を営んでいて白牡丹も薬に通じており、修行の一環として本図同様「採薬」に出かける場面も見られる²⁹。

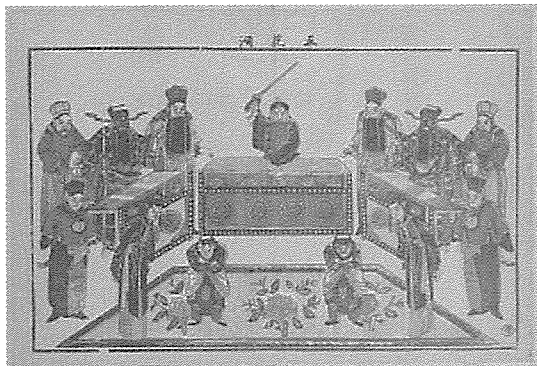
また、本二図はともに西王母の誕生祝いに関わるといふ点が共通している。



2-14/封神演義/36×52/義合工廠
小説『封神演義』の姜子牙が封神する場面を描く。



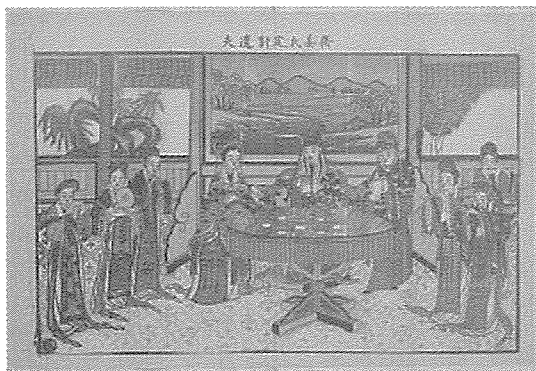
2-15/法門寺/36×52/増
《法門寺》の劉瑾が劉彪・劉公道を裁く場面を描く³⁰。



2-16/五花洞/36×52/増

《五花洞》は五花洞の妖怪が武大と潘金蓮に化けて本物と偽物が見分けられなくなったのを、包拯と張天師が判別し、調伏する戯曲。ただし、本図では武大と潘金蓮のほか、包拯ら4人も同じ姿で左右に描かれている。

齊如山によると包拯や張天師の偽物が現れる場面が加わった版もあった(後にそれぞれ『双包案』と『双天師』として独立)らしいので、本図はそれに基づくか³¹。また、正面の壇に立ち審判を下している人物は三目である点などから普化天尊と考えられる。山下一夫氏によると『双天師』に相当する清蒙古車王府曲本『九花洞』では張天師の真偽は師匠の普化天尊が見破っているのので、《五花洞》でも同様に普化天尊が登場するものがあつたと考えられる。



2-17/齊姜氏定計遺夫/36×52/元

齊姜と趙衰は齊から動こうとしない重耳を酔わせて車に載せて齊から連れ出した。本図は齊姜と趙衰が重耳に酒を飲ませている場面を描く。戯曲では《酔遣重耳》に相当する³²。



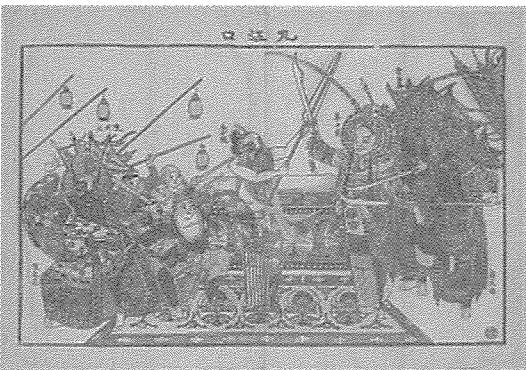
2-18/翠屏山/36×52/-

本図は《翠屏山》を題材とし、
潘巧雲と侍女、潘老丈、石秀を
描く³³。



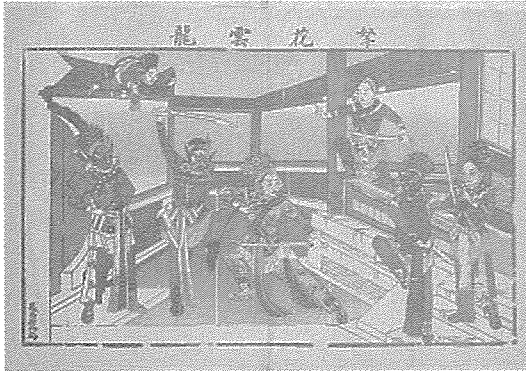
2-19/花為媒/36×52/-

成兆才作の評劇《花為媒》を題
材とする³⁴。



2-20/九江口/36×52/増

《九江口》を題材とし、朱元璋
方華雲龍・常遇春・胡大海と、
陳友諒・陳英傑・張定辺とのた
たかいを描く³⁵。

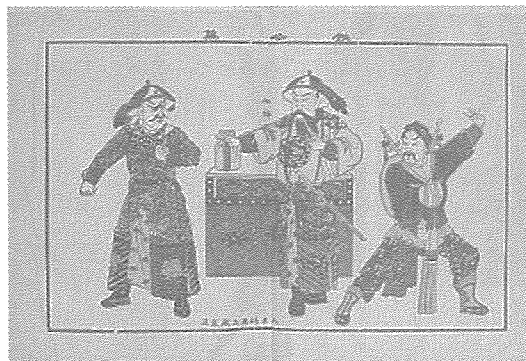


2-21/拏花雲龍/36×52/義昌彩印局
 濟公もの。花雲龍を捕らえようとする場面を描く。該当場面は《趙家楼》や連台本戯《濟公伝》中にみられる³⁶。



2-22/馬芳觀城/35×51/天津德源工廠製造
 本図は《馬芳困城》を題材とする³⁷。陥れられた義父の楊波（楊伯）を救うため、馬芳が皇城を囲む。万曆帝は楊波の釈放などの条件を受け入れ、楊波をして馬芳を退けさせる。

「古燕 王紹田画稿」とあるが、王紹田は楊柳青の画師。光緒から民初にかけて活躍、1931年以前に逝去したと考えられる³⁸。

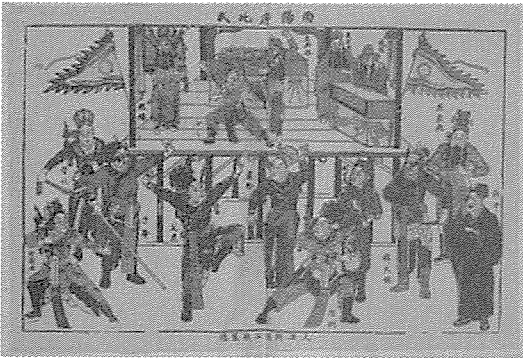


2-23/鉄公鷄/35×51/天津德源工廠製造
 本図は《鉄公鷄》を題材とする³⁹。



2-24/孫悟空龍宮得寶/35×51/天津德源工廠製造

『西遊記』もの。《水簾洞》中の孫悟空が龍宮を騒がす（《鬧龍宮》）の場面を描く⁴⁰。



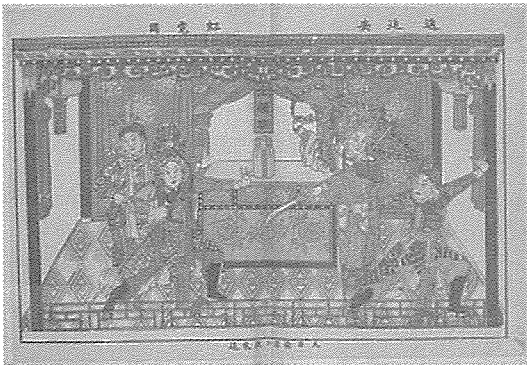
2-25/南陽府比武/35×51/天津德源工廠製造

『続小五義』もの。



2-26/搖錢樹/36×52/岳龍莊義盛
猿工廠

《搖錢樹》を題材とし、張四姐と、それをとらえにきた穆桂英や孫悟空らのたたかいを描く⁴¹。



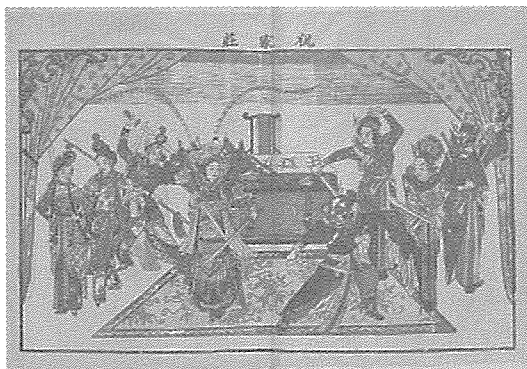
2-27/返延安 虹霓関/35×51/天津徳源工廠製造

右図は『五虎平西演義』もので《反延安》の狄青と双陽夫人を描き⁴²、左図は『説唐全伝』もので《虹霓関》の王伯党と東方夫人を描く⁴³。



2-28/女俠紅蝴蝶/36×52/増

本図は《女俠紅蝴蝶》を題材とする⁴⁴。

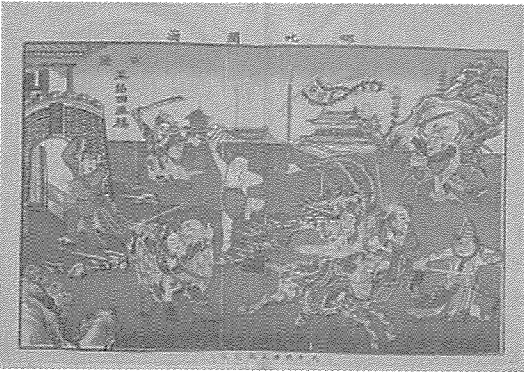


2-29/祝家荘/36×52/-

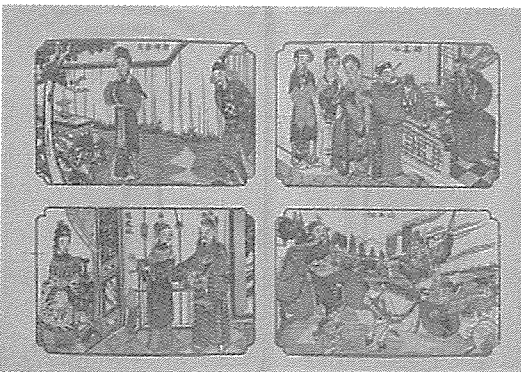
『水滸伝』もの。《祝家荘》《三打祝家荘》の、祝家荘を助けに来た扈三娘と梁山泊の面々がたたかう場面を描く⁴⁵。



2-30/笛家鎮/36×52/義盛
 工殿
 『続小五義』もの。

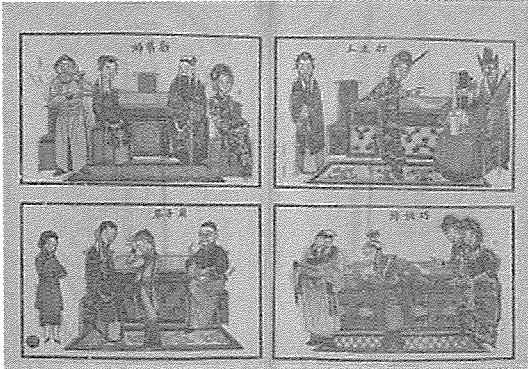


2-31/哪吒鬧海/35×51/天津
 德源工廠製造
 『封神演義』もの。哪吒が東
 海龍王の配下とたたかう場面
 を描き、《哪吒鬧海》《陳塘関》
 に相当する⁴⁶。
 「古燕 王紹田画稿」とある。



2-32/贈美女・過五關・貂蟬祭
 月・龍鳳配/36×52/㊦
 『三国演義』もの。「贈美女」は
 関羽に曹操が美女を送る《送美
 女》を⁴⁷、「過五關」は関羽が五
 つの関所を破る《過五關》を⁴⁸、
 「貂蟬祭月」は王允の歌伎の貂
 蟬が、主人王允が董卓の害を除

くことが成るように月に祈る《連環記》中の《拜月》のくだりを⁴⁹、「龍鳳配」は《甘露寺》
 中の劉備と孫夫人との対面のくだりをそれぞれ描いている⁵⁰。



2-33/打皂王・巧姻縁・勸第婦・
周子琴/36×52/増

「打皂王」は《紫荊樹》《打龍王》
《打龍君》を⁵¹、「巧姻縁」は同
名戯曲を⁵²、「周子琴」は《夜審
周紫琴》をそれぞれ題材とする⁵³。
「勸第婦」は不明。



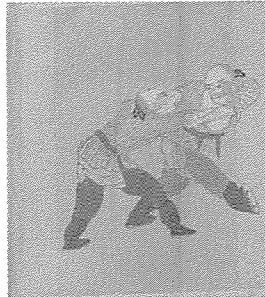
2-34 (左) /摔跤図/28×26/-



2-35 (右) /摔跤図/28×26/-



2-36 (左) /摔跤図/28×26/-



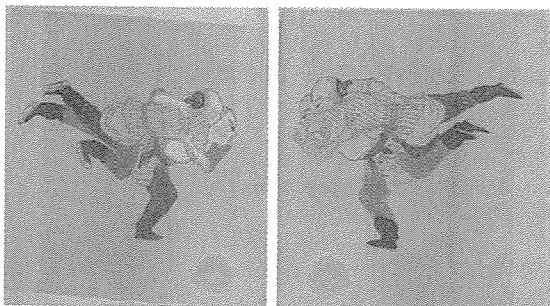
2-37 (右) /摔跤図/28×26/-



2-38 (左) /摔跤図/28×26/-



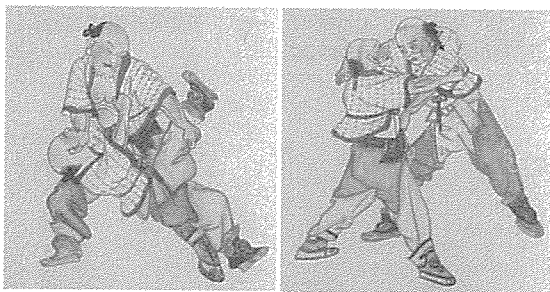
2-39 (右) /摔跤図/28×26/-



2-40 (左) / 摔跤図/28×26/-

2-41 (右) / 摔跤図/28×26/-

2-34～41は「摔跤」を描く。摔跤とは、角抵戯の伝統を引くといわれる格闘技。天橋では雑芸のひとつとして行われていた⁵⁴。本図は、下掲した『北京風俗図譜』[八-14 武藝]中の「摔角」との関連が伺える。目のタッチの違い(『北京風俗図譜』の方が細密である)から同じ画工によるとは断言出来ないが、構図や服装、服の模様が近似しており、青木が特別に関心を持って別の画工(或いは青木自身か)に描かせたか、同じ画工が下絵として描いたものと考えられる。



『北京風俗図譜』
[八-14 武藝] (一部)⁵⁵

¹⁵ 演目名は王森然遺稿，《中国剧目辞典》扩编委员会扩编『中国剧目辞典』河北教育出版社，1997に所載のものは同書に従い、同書に未掲載のものについては別添示す。

¹⁶ 王乃和「成兆才剧本的创作年代与首演情况调查」成兆才先生纪念委员会编『成兆才先生纪念集：评剧创始人之一』河北人民出版社，1957, pp.174～194

「成兆才剧本的题材出处与故事提要」同上，pp.195～239

¹⁷ 胡協寅『雙鏡記：唱詞言情小説』廣益書局，1947.3

¹⁸ 前掲『中国剧目辞典』p.1001

¹⁹ 前掲『中国剧目辞典』p.784,726～727,1024

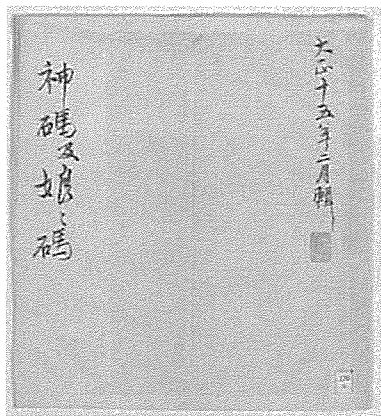
²⁰ 前掲『中国剧目辞典』p.20

²¹ 前掲『中国剧目辞典』p.875,898

²² 前掲『中国剧目辞典』p.378

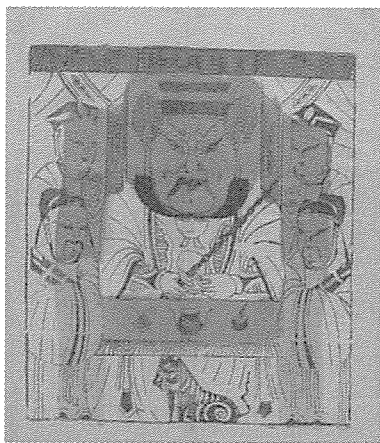
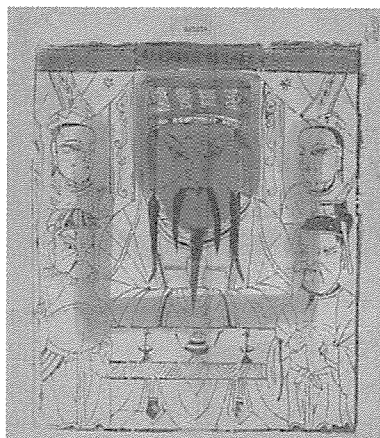
-
- 23 前掲『中国剧目辞典』 p.12
- 24 前掲『中国剧目辞典』 p.806
- 25 前掲『中国剧目辞典』 pp.568-569
- 26 天津地方志编纂委员会『天津通志出版志』第二章「年画」表1-3「1900年-1937年炒米店主要画铺一览表」天津人民出版社,2001,p.86
- 27 敦崇編・小野勝年訳注『北京年中行事記』岩波書店,1941,p.188
- 28 金其伟「乐亭皮影卷存目补遗」『读乐亭』18,2008.6
(<http://www.guxiangren.com/bencandy.php?fid-148-id-1976-page-1.htm>)
- 29 佚名『三戏百牡丹』齐鲁书社,1990
- 30 前掲『中国剧目辞典』 p.411
- 31 齐如山「戏界小掌故」中国人民政治协商会议北京市委员会文史资料研究委员会編『京剧谈往录三編』北京出版社,1990
なお、《五花洞》については山下一夫「混元盒物語の成立と展開」『近代中国都市芸能に関する基礎的研究』(平成9—11年度科学研究費基盤研究(C)研究成果報告論文集)にくわしい。本項でも多く同論文によった。
- 32 前掲『中国剧目辞典』 p.870
- 33 前掲『中国剧目辞典』 pp.848~849
- 34 前掲『中国剧目辞典』 p.342
- 35 前掲『中国剧目辞典』 p.29
- 36 前掲『中国剧目辞典』 p.802、978
- 37 前掲『中国剧目辞典』 p.535
- 38 「王绍田,光緒年間在薛庄子有才子之称……民国初年天津教育司进行年画改良,王绍田创作了七十多幅内容健康和晓文有历史教育意义的故事画样,供杨柳青年画作坊采用,至今仍有线版传世。王绍田因有勇于改良年画,民国年间被天津教育局授予“画工师”荣誉称号。大约在“九·一八”事变前,便溘然逝世了。」
王树村主編『中国年画发展史』天津人民美术出版社,2005,pp.384-385
- 39 前掲『中国剧目辞典』 p.1058
- 40 前掲『中国剧目辞典』 p.151,856
- 41 前掲『中国剧目辞典』 p.769
- 42 前掲『中国剧目辞典』 pp.131~132
- 43 前掲『中国剧目辞典』 p.451
- 44 前掲『中国剧目辞典』 p.80
- 45 前掲『中国剧目辞典』 p.51,561
- 46 前掲『中国剧目辞典』 p.541,667
- 47 前掲『中国剧目辞典』 p.567
- 48 前掲『中国剧目辞典』 p.774
- 49 前掲『中国剧目辞典』 p.452
- 50 前掲『中国剧目辞典』 p.171
- 51 前掲『中国剧目辞典』 p.184,613
- 52 前掲『中国剧目辞典』 p.168
- 53 前掲『中国剧目辞典』 p.408
- 54 内田道夫監修・白井武夫解説『燕京風俗』東方書店,1983,pp.2-42~43
- 55 前掲『北京風俗図譜』 p.206

3. 『神碼及娘々碼』



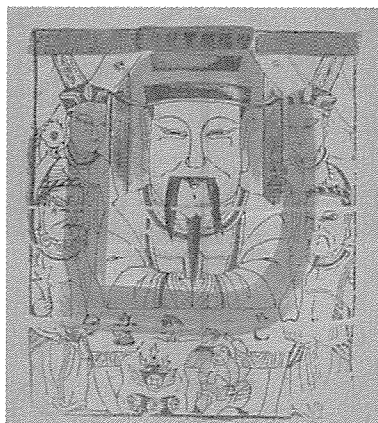
3-00/表紙

3-01/関聖大帝/40×36/
忠義神武靈佑仁勇威顯関聖大帝



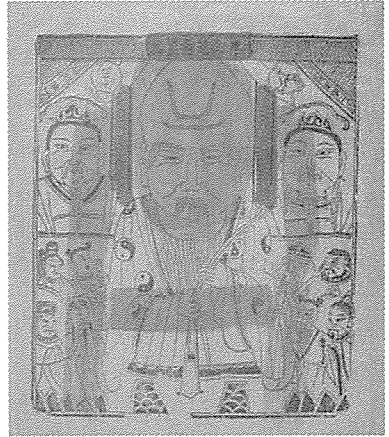
3-02/元壇趙元帥/40×36/-

3-03/増福積寶財神/40×36/-

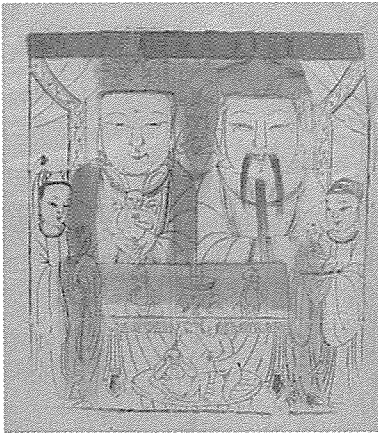




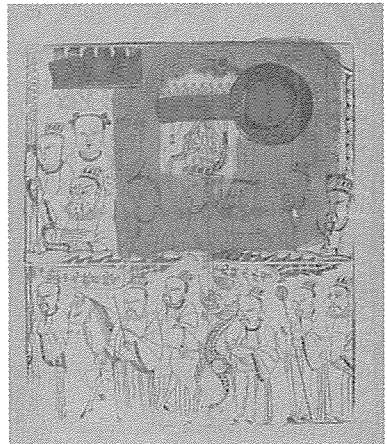
3-04/星科/40×36/-



3-05/本命延壽星君/40×36/-



3-06/床公床母/40×36/-



3-07/三官/40×36/-



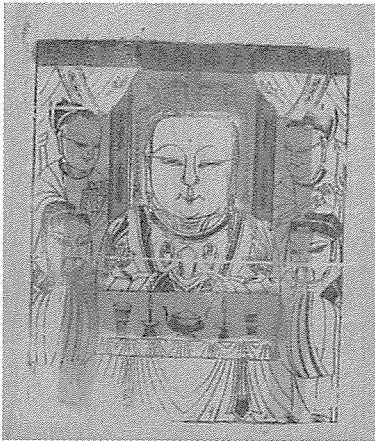
3-08/白衣送子観音/40×36/-

3-09/天仙娘娘/40×36/-

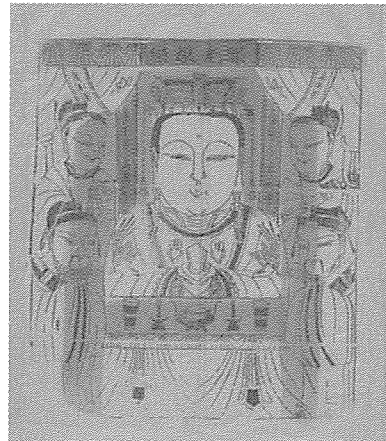


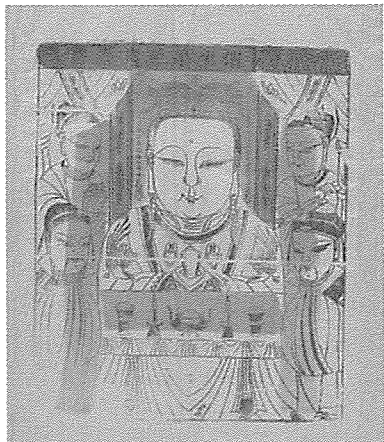
3-10/子孫娘娘/40×36/-

※3-10~17 は名前以外全て同じ図柄。

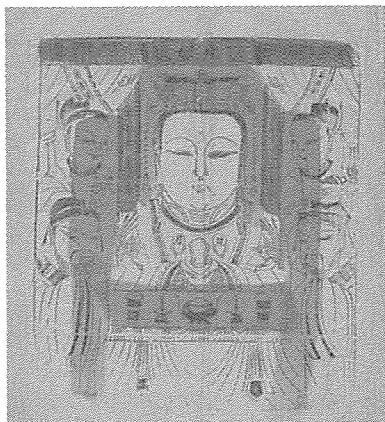


3-11/眼光娘娘/40×36/-

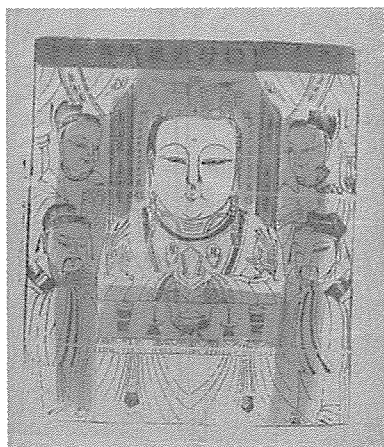




3-12/催生娘娘/40×36/-



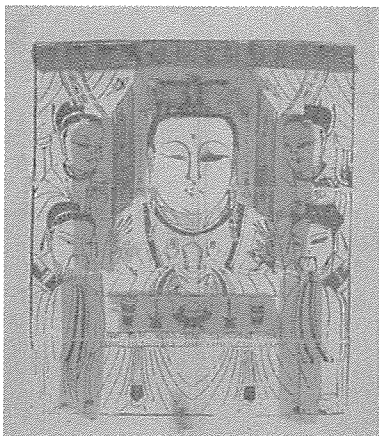
3-13/送生娘娘/40×36/-



3-14/奶母娘娘/40×36/-



3-15/培姑娘娘/40×36/-

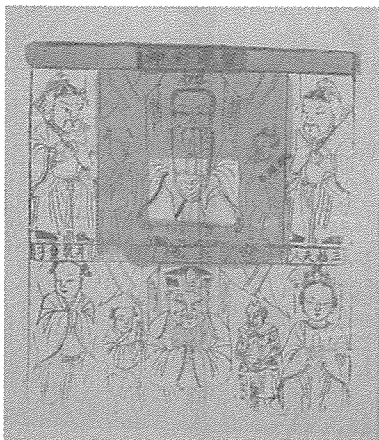


3-16/引蒙娘娘/40×36/-

3-17/脏疹娘娘/40×36/-

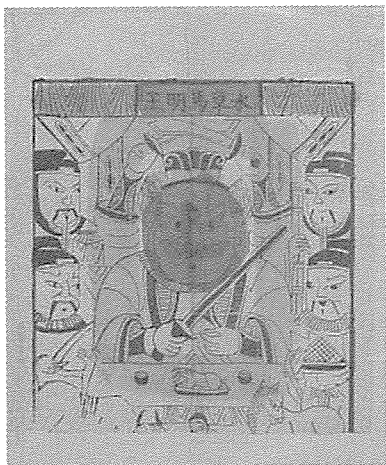


3-18/家宅六神/40×36/-

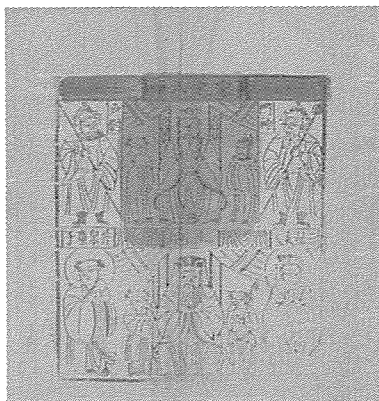


3-19/司命之神/40×36/-

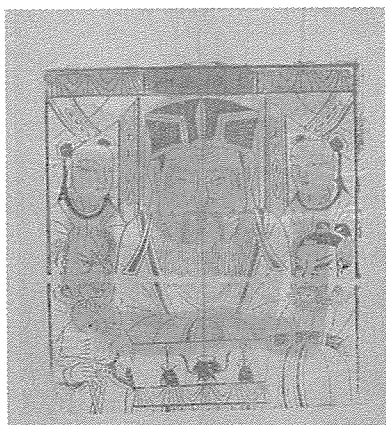




3-20/水草馬明王/31×27/-



3-21/家宅六神/31×28/-

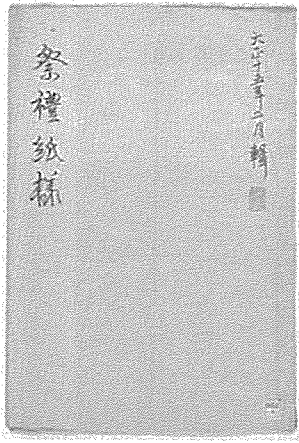


3-22/土地正神/31×28/-



3-23/四值功曹/31×28/-

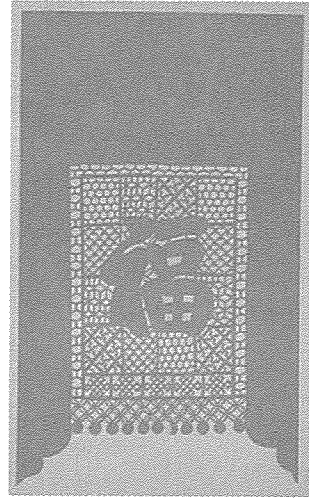
4. 『祭禮紙様』



4-00/表紙

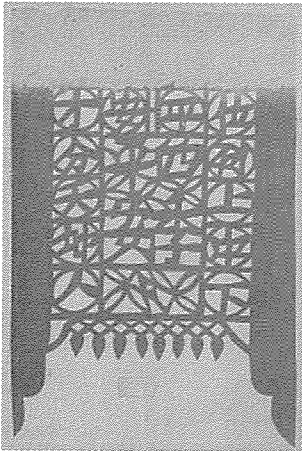
4-01/掛銭「福」/51.5×31/-

上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。



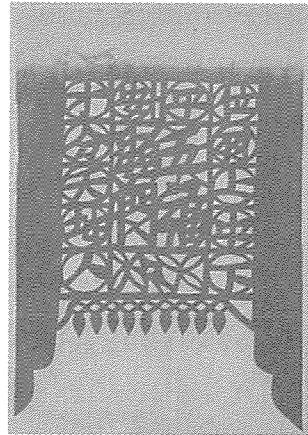
4-02/掛銭「四季平安」(1)/43×28/-

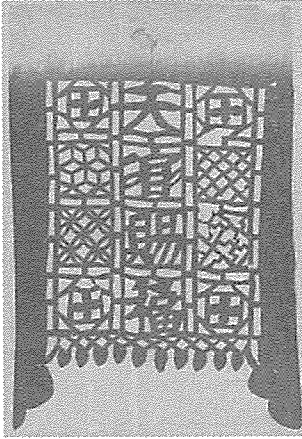
上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。



4-03/掛銭「五福臨門」/42×29.5/-

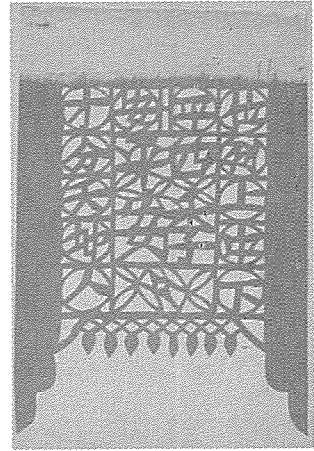
上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。





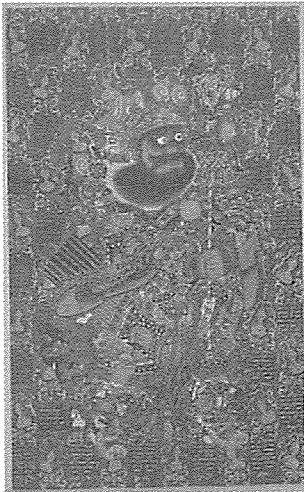
4-04/掛銭「天宜賜福」/42×28/-

上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。



4-05/掛銭「四季平安」(2) /43×28/-

上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。

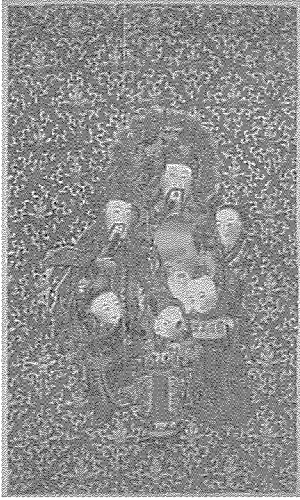


4-06 (右) /門神/57
×34/-

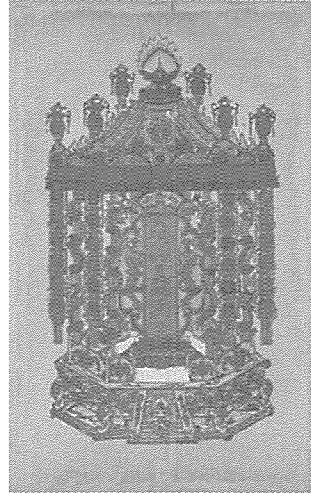
4-07 (左) /門神/57
×34/-

上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。

『北京風俗図譜』
[一-1 春聯門神]中
にも門神の絵が見
える。



4-08/門神「財神」/57×34/-



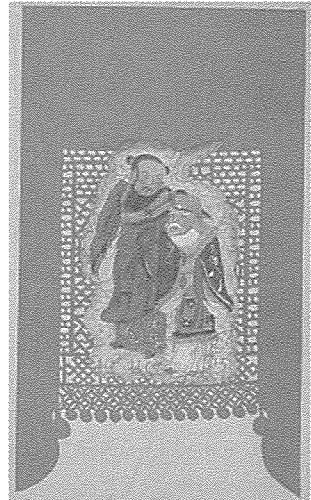
4-09/神碼「天地三界十方萬靈眞宰」/57×34/-

上述「春聯から春燈まで」中に記述あり。



4-10/八仙「呂洞賓(右)・韓湘子(左)」/52×30/-

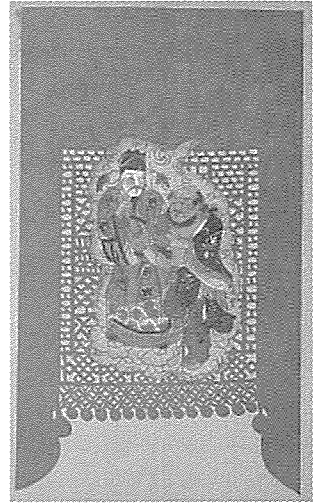
『北京風俗図譜』[五-7 敬神器物]中にも八仙の絵が見える。(以下、
4-11,13,14 も同様)



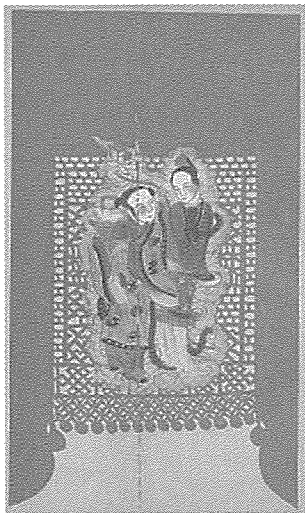
4-11/八仙「張果老(右)・鍾離権(左)」/52×30/-



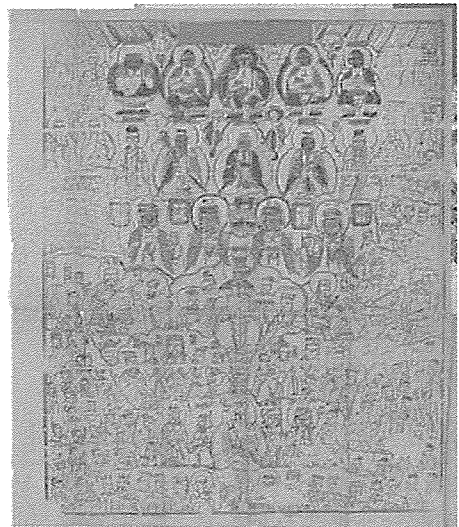
4-12/寿星/52×30/-



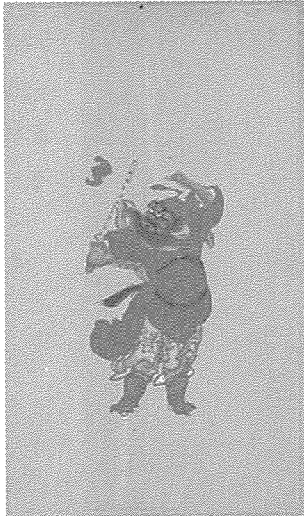
4-13/八仙「李鉄拐(右)・曹国舅(左)」/52×30/-



4-14/八仙「何仙姑(右)・藍采和(左)」/52×30/-



4-15/天地三界十八佛諸神/87×73/-



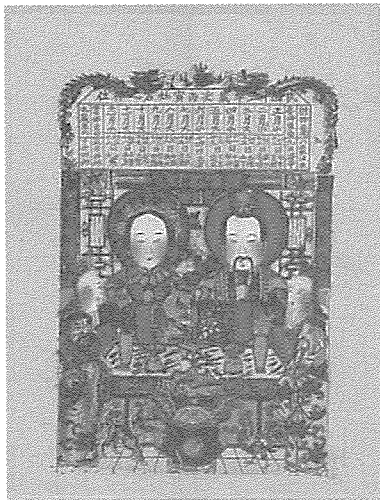
4-16 (右) /鍾馗 (1)

/52×29.5/-

4-17 (左) /鍾馗 (2)

/52×29.5/-

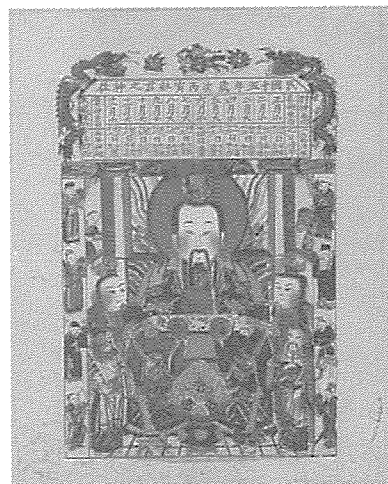
『北京風俗図譜』【一
-8 綵糸繫虎】中にも鍾
馗の絵が見える。



4-18/竈神図/35×27/-

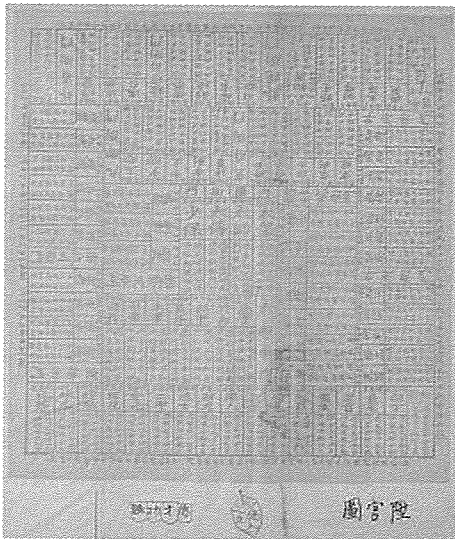
民国十五年歳次丙寅灶君之神位

なお、民国15年は1926年。



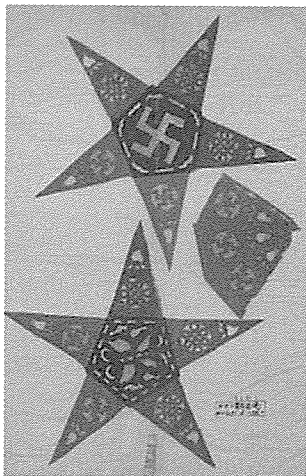
4-19/竈神図/35×27/-

民国十五年歳次丙寅灶君之神位



4-20/陞官圖/47×44/-/

青木によりコマの絵が描き込まれている。



4-21/五芒星符/星の一边（先端から先端まで）
が30~31程度-